

# 森林塾通信

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川清志  
 題字 島崎洋路

## 『慣れる!! けれど侮らないで』

### 通年コース第五・六回開催報告 『伐木造材・下草刈り』

今年初っ端から雨にたたられ、しかも今回は梅雨の真っ最中。お天気になればいいなど随分気を揉んだのですが、丁度梅雨は中休み、二日間なんとか持ちこたえ、初めてのチェーンソーと下草刈りを行うことができました。

一日目は駒ヶ根市の平地林での伐木造材。ポランテアで、または仕事で時にチェーンソーは使います、という方も何人もいましたがまずは基本から。島崎先生がよく言われる、「目立てもでき、メンテナンスもできる、

しばらく時間がかかりますが、徐々に扱いに慣れ、目立てやメンテナンスも覚えて、「使える」ようになってもらいたいと思います。慣れてくれば仕事も進み、楽しさも増すというわけです。

打って変わって二日目は単純作業。四月に植えたヒノキの子どもたちは多少枯れてはいたもののまあまあ活着でした。蒸し暑い中、汗を拭き拭き下草刈りです。保科先生が言われたように下草刈りはいつやるか、が一番の問題です。すっきり灌木や雑草に覆

それで初めてチェーンソーが使えるということですね」となるにはしかりと身に付けければ、自ずと自分の型というものもできてくるはずですよ。

伐倒練習にに手ごるな大きなヒノキやアカマツ、二、三本は倒せたでしょうか。チェーンソーが使えても伐倒はまた別物。地形、樹種や太さ、その時の気象条件、そして伐出するのかがどうか等によっても倒し方が微妙に異なってくる。回数を重ね、少しづつ覚えていくしかないでしょう。こちらと同じく、基本に忠実に、です。

### 通年コース 第五回 6月20日(金) 伐木造材

われたあとでは効果半減。早め早めに刈ってあげて風通しと日当たりを良くしないと下枝が枯れてしまいます。場所により、植えてしばらくは年二回の下草刈りが必要となるもあるとか。

備体操ののち、四班に分かれてチェーンソーの始動、玉切りの練習。川島班はベテランが多く、早々に切り上げ伐倒訓練に入る。後藤班もつづく

12時 昼食  
 1時 午後の部開始。椎原班は慎重に一本一本ロープで引きながらの伐倒。そこでここでパタパタ木が倒れる。倒した木は西駒郷(知的障害者コロニー)の皆さんが利用してくださるということ、すべて2mに玉切り。

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ、日程説明。受け口、追い口模型を使って伐倒の説明の後、分乗して出発

9時50分 市開発公社が所有している駒ヶ根高原の平地林の一角に到着。準備



ロープを使って思った方向に安全に倒す



ナタのケガは案外多い。添える手要注意



受け口は斜めと水平の終わりを合わせる



チェーンソーの自重で切り進む

第六回 6月21日(土)  
下草刈り

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ、日程説明。昨日できなかったチエーンソーのメンテナンスと目立てを班ごとにやってみよう。よく切れる時の感触を覚えておいて、切れないと思ったらこまめに目立てをしましょう。やすりは真っ直ぐ、ゆっくり丁寧に。

おっと出かける時間だ、早く腰を上げて  
10時20分 西春近にある下殿島区有林着。今年と去年植林したところの下草刈り。草木が植栽木を覆



刈り足を大きく残さないように

い隠してしまっている。保科先生のご指導のあと縞の間に散らばって開始造林鎌と手鎌の作業でしたがさすがに大人数。七反部の大方を刈り終えた。12時 昼食。天気はまあまあ。木陰にそよ風が吹いていい気持ち。うとうと1時 ここは15年程前の山林火災跡地。いままで手付かずでいたので多種の広葉樹がびっしり生えている。島崎先生が主なものを説明してくれた。エゴノキ、クロモジ、リョウブ、イヌザンショ、タラノキなどの灌木がほとんどで、材として有用なものはクリ、コナラ、サクラ類くらいだが量的には少なく、このままで有用広葉



造林鎌部隊が縞に沿って進む

樹林に誘導するのは少し難しい、というご意見でした。坂野による刈り払い機のデモのあと  
1時30分 来年の植林予定地での地ごしらえ体験。灌木を刈ったり、枝条などを片づけて、林地を植林ができる状態にする事を地ごしらえといいます。今日は刈られた灌木で編作り、いわゆる「まくり」の作業です。急傾斜地で束ねられた灌木に足を取られて、自分が縞の一部になってしまつこともあり、結構ハードな仕事です。大汗です。縞と縞の間隔は植えるべき苗の間隔の倍数になるとのこと。木村さん、一人で頑張っ



材として使える広葉樹が意外と少ないですね

てないでもうあがるよ。  
2時30分 現場終了。小屋に戻る  
3時 小屋着。鎌の研ぎ方の保科先生の説明。「こういう向きに抑えていないと手を切ってしまうからね」あれ、井伊さん大丈夫？  
自分の使った鎌をきれいに研いで  
4時 終了、解散  
参加者/相内さん、阿部さん、井伊さん、岡崎さん、小栗さん、椎名さん、園田さん、滝口さん、武田さん、永井さん、西村さん、日比野さん、茂籠さん、矢島さん、木村さん、斉藤さん、風見さん、長坂さん  
講師/保科先生、島崎先生



公園の小川が鎌研ぎ教室になった

スタッフ/川島、小泉、後藤、椎原、坂野、早川  
次回以降の予定  
7月3日(木)  
7月5日(土)

次回以降の予定

7月3日(木)  
7月5日(土)

保科先生のお膝元、長谷村の鹿嶺高原で行います。

「鹿嶺高原(かれいこうげん)」は、伊那山地の中腹に広がる標高1,852mの高原。目前に南アルプスの仙丈ヶ岳・東駒ヶ岳・鋸岳が迫り、中央アルプスや遠く北アルプス連峰まで一望できる360度の絶景が味わえます(長谷村ホームページより) 展望をさえぎる少し込みす

第七・八回

7月18・19日(金土)  
間 伐

ぎた頂上の樹林の間伐です。傾斜もそこそこ。村営の簡易宿泊施設をお借りし、三日間の合宿になります。真夏でも冷えますので夜の防寒対策はしっかりと。寝具は借りられます(有料)、シユラフ等あれば持参ください。初日は先生方のご担当です。

前回覚えたチエーンソーを使っていよいよ間伐です。調査、診断し、方針を決めた後、伐倒に入ります。二日間での一連をやってみましょう。8時30分島崎先生の小屋集

合、場所未定。18日は島崎先生、19日は保科先生の担当です。

初日の夕方、希望者で恒例の暑気払いをしましょう。実費必要。幹事さん募集中。

### 集中コース夏の部

7月31日(木)

～8月2日(土)

KOA森林塾のエキスを集めた三日間のコースです。樹木分類、測樹から間伐まで盛りだくさんの内容です。先生方のご担当は7月31日の初日です。

ただ今塾生募集中。締め切り7月10日(木)。KOAホームページからも申し込めます。

### 第九・十回

8月22・23日(金・土)

### 伐 出

間伐で倒した木はできれば山から出して利用したいものです。いわゆる「出し」の技術のABCを覚えてもらいたいと思います。伐倒した後、携帯ウインチや林内作業車などによる出しの作業を体験してもらいます。場所未定



## リレー通信

私にとって「仕事」とは...?  
「自分史を振り返って」  
小栗 文夫

塾生・OB・スタッフ・講師の皆さん、こんにちは。昨年の秋の集中コース以来お世話になっている通年コース生の小栗文夫です。  
四月から毎月伊那を訪れるようになり、そのたびに、今度はどんな作業がやれるのか、何が学べるのか(苦手な数字いじり以外は)胸をはずませて実習に講義に臨んでいます。四月・五月の講座も期待どおりの充実した中身を得



ることができた満足しています。  
・私の今の仕事  
私はふだんは東京の隣町・千葉県市川市に住み、ここ十年あまり雇われ作業員としてビルの窓ガラス清掃を本業にしています。都内や神奈川県内の現場に向かう事が多いです。

最近では仕事にも慣れ、体力・筋力的に乏しいながらも楽しく作業できる事が多いです。でも、そうやってみてあらためて自分の仕事を振り返ると、働いた結果が働きかけた相手(ビル・窓ガラス)から返ってこないのが気になるようになりました。

そして「やっぱり自然を相手にする仕事はいいなあ」と思いました。もう二十年以上も前の学生時代に、みかん栽培や酪農などの手伝いをした経験があり、私にとってはそのような第一次産業のほうがかぶさわしいと考えた事もあったので

私に、セロから始める事の困難さに精神的に勝てず、時代の趨勢に流されるように生きてきてしまいま

した。でも、それは私が積極的に選びとった道ではなかった以上、いつか否定しなければならなくなるような生き方であったのかも知れません。  
・発想の原点をたどる  
私の体験的世界観

私が、ものごころのついた四歳から、中学一年までの一九六〇年代に住んだのは、福岡県の南端の大牟田という炭鉱・工業都市でした。そこで目に入ってきたものは、労働災害(事故)と公害というツケを労働者と住民に押しつけて、強引に進められている「高度経済成長」という現実でした。数々の悲惨な出来事を目の当たりにし、子供心に大人をやっている社会に対し強い不信と不安感を刻み込まれました。

また、七〇年には横浜へ一家で移転したのですが、当時の京浜地区は産業界の公害対策の遅れから大気汚染・水質汚濁ともにピークを迎える頃で、激増する自動車交通による排出ガス汚染も深刻化していました。大規模開発や空港・自動車道路建設をはじめとする諸々の社会資本の整備も、充分なコンセンサスをつくる手段を欠いたまま急ピッチで進められ、今日に至る資源やエネルギーを多用する現代化・都市化した社会をかたちづくる基礎固めが進んだ時期でした。



せつかく移り住んだ家も、数年後には、自動車道路建設のための移転を余儀なくされる経験もありました。  
十代までのうちにこのような経験を経たおかげで、私の中に既存社会や大人たちに対する「批判精神」が養われたように思います。とにかく、自分が公害を出す側にまわることには拒否したい。そして、これほどまでに環境を破壊し、市民を傷つけてしまうシステムを、変えるにはどうすればいいのかと考えるようになりまして。

・試行錯誤  
幸い、同じようにこれ以上の人権侵害・環境破壊をなんとかやめさせることが必要だと考える仲間がいて、一緒に調査や勉強をしたり、地域の運動体との交流や、道路建設計画の中止を求めて訴訟を起こしたりと、反公害の活動を数年間続けました。

先述した農業体験も、その時の仲間とのかかわりの中で実現できたことでした。それ

は、都市生活しか知らなかった私にとって、かけがえのない体験であるとともに、ひとつの「可能性」として深く心に刻まれました。

そして、一方では止まることを知らないかのような産業活動の結果、公害をはじめとするさまざまな弊害が生れているように見える社会。私の心の中では、厳しい「現実」に対して理想的な「ユートピア」を描こうとして、理念同士のせめぎあい起きていたように思います。

結果的には、「反公害」の活動は、残念だけど労多くあまり具体的な力にはならなかったように感じます。ビジョンの提示や、新たに作り出すべきものが何なのか、必ずしも明らかではなかったと思えます。

そして、若くて何もたない当時の私は、自分の非力に苦しみ、手がかりをつかめなまま悩んでいたのです。こうして、私の社会人としてのスタートは、挫折感・敗北感を持ったまま、生活のために就職していくという形になりました。

・働き方を選びなおすこと  
この間、何回か仕事を変えたりもし、いろいろまわり道をしてきた私ですが、三年前に父が亡くなり、「家」の重荷が軽くなってしまつと、自分のこれからのことをもう少し

すっかり考えよつと思いました。

気持ちの上でも納得でき、自分の力を存分に発揮できるような仕事。できれば環境破壊ではなく、環境を豊にする方向の仕事。理想を言えば、働くことで自分も対象も元気になるような仕事。それは、なんとなく直感的に「林業じゃないか」と思いました。そして、私の慣れ親しんでいたメンテナンスの仕事は、林業のありように通じるころがある。山に入ることに興味がある。歩くことが大好きである。高所作業のブコである。……このような点をめいっばいひいき目に見て、あとは技術と知識で補えば、こんな私でもなんとかなる。新しい世界に参加できるのではと、自分なりに大胆に発想しました。田舎暮らしの経験のない私には、学ぶ場が必要と思っていたところ、「森林塾」にめぐりあうこととなりました。

## リレー通信



樹木よありがとう  
岡崎 静香

樹木の間に入ると、気持ちは落ちつき、すがすがしくなります。切れた青少年も、悩みを持つ青少年も木々の間に入ると、元の明るい元氣な子どもに戻っていく事例をいくつか聞いてきました。子どもたちだけでなく、大人にも森林浴として喜ばれています。また、木は雨をしっかりと吸いこみ、山のダムとして水をためこみ、少しづつ川に流



この塾に集う方々をみると、皆さん非常に大胆に生き方を変えて来ておられるようで、びっくりし、励まされます。そういう先達に学ばせてもらいながら、自分にとってやりがいのある仕事を、ひとつでもふたつでも作り出してみたいと思っています。皆様、今後ともよろしくお願致します。

してくれるので、私たちはいつでも飲み水が得られるのですが、山を失った国では降った雨は一挙に海に流されてしまい、水不足で農作業はできず、食糧難となっています。日本は緑いっぱい国ですが、先生のおっしゃる通りに、手入れがゆきとどかず、荒れた山になってしまっています。そのことを知らされて十数年がたちますが、いまだ自分の山も手入れができていません。猫のひたい程の山ではありませんが、この山の管理をどのようにしようかというのが、私の長年の課題であります。しかし、公務員としての仕事におわれている間は、腰をすえて山を見つめることもできませんでした。

退職した今、やっと山に向き合う時が来ましたが、どのようにしたらよいかかわらないのが現実です。ただ、山林の手入れがなされず、それが自然環境を悪化させ、人のためにも良くないことは聞いていますので、地主として何とかしたいと思うのですがこれといった答えがないのです。そこで、今回の森林塾入塾となりました。入った

ばかりの私は、これからこれからと言ったところで、世の中には、言葉では立派なことではあるが、行動がともなっていないことがあります。私は、実際に山の管理ができるようになってはじめて、山のことを少しは知っていますと言えるのだと思っています。今後も、黙って私たちの生活を守ってくれている樹木に感謝し、恩返しできるように頑張つてゆきたいと思えます。



### コラム

梅雨明けはまだですが、暑くなってきましたね。山で仕事をしても、少し動いただけでも汗だくです。汗をかくと、どうしても欲しくなるのが水分。麦茶、スポーツドリンク、氷水に熱いお茶等と、各自工夫を凝らしています。問題は、その量。仕事中に手元の飲み物が無くなった時のせつなさは、筆舌につくせません。「車に帰ればまだ麦茶が

あつたはず。」と思いつつ、この斜面を降りてまた登ってくる気にはとてもなれないわけで、ゆえに常に少し多めに飲み物を担ぎあげることになります。ちなみにうちの組のトップは、某工氏の2.5リットルです。(重たいと思いますよ……)



梅雨明けはまだまだですが、暑くなってきましたね。山で仕事をしても、少し動いただけでも汗だくです。汗をかくと、どうしても欲しくなるのが水分。麦茶、スポーツドリンク、氷水に熱いお茶等と、各自工夫を凝らしています。問題は、その量。仕事中に手元の飲み物が無くなった時のせつなさは、筆舌につくせません。「車に帰ればまだ麦茶が

この平地林、伊那市が森林公園化を目指して山林の買収や管理委託を請け負ったりしていますが、そのあるべき姿の指針を作ろうということになり、島崎先生をはじめとしたメンバーを集め検討会が開催される事になりました。森林塾としても関わりの深い平地林です。こんな山になればいいなという案がありましたら早川までお教えください。

ます。よく手入れされた杉林にそれほど降る雨の風情はなんといいえません。下生えに咲くコアジサイの落ち着いた柔らかな青。雨の日もそれなりにいいものです。さて昨年まで森林塾の間伐等を使わせてもらっていたますみヶ丘の平地林。昨年才オタカの営巣が確認されて、今年は少なくとも雛が巣立つまでは手をつけないでいようということになり、伐倒などは避けています。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
H.P. http://www.koanet.co.jp

